

感染症内科

上平 朝子

当院は平成9年4月にエイズ治療の近畿地方ブロック拠点病院に選定され、診療、研究、情報発信、教育研修の4つの機能を求められている。当院のHIV患者数は、毎年1年間で200名以上の新規患者が受診し、平成24年2月末現在、当院のHIV感染症累計患者数は約2200名を超えている。入院累積患者数は2500名以上となり、外来・入院ともに診療患者数は年々増加している。当科では、HIV感染症に関する多様なニーズに対して、医師、看護師、薬剤師、カウンセラー、情報担当官、ソーシャルワーカーらでチーム医療を実践している。現在の診療内容は、HIV感染症が全体の9割近くを占めており、その他は免疫疾患、一般感染症（一類、二類を除く）などである。

「主な診療、研究」

日和見感染症に対する治療や予防の進歩と抗HIV療法の確立によってエイズによる死亡者数は減少した。当科では、ニューモシスチス肺炎、サイトメガロウイルス感染症、クリプトコッカズ髄膜炎、非結核性抗酸菌症など多彩な病原体による日和見感染症（480例以上）や日和見腫瘍（主に悪性リンパ腫やカポジ肉腫）の診療を行っている。また、新しい抗HIV薬も次々と承認され、現在は一日一回療法も可能となるなど、最新の治療を提供している。しかし、長期間にわたり正確な内服を継続しなければならない抗HIV療法の身体的、精神的負担、難治性病態への対応など課題もある。抗HIV薬の治療効果や副作用の調査及び検討、HIV関連の悪性腫瘍や神経疾患、免疫再構築症候群、急性HIV感染症などの難治性病態についての臨床研究や症例検討、ウイルス肝炎（HCV、HBV）とHIVとの重複感染についての症例研究などを行い、多施設との共同研究にも参加し、日本エイズ学会を始めとした多くの学会で発表している。

「情報発信、教育研修」

HIV感染症は、病原体も感染経路も予防方法も明らかであるにも関わらず蔓延している。日本では、30～40歳代の若者を中心に患者数が増加しており、しかも未だに偏見差別の対象である。拡大する性感染症としてのHIV感染症の早期発見と予防のために、病気についての正しい知識を幅広く提供している。現在、ブロック拠点病院である当院にHIV感染症患者が集中していることから、中核拠点病院を始めとした各拠点病院との連携を強化し、HIV診療のレベルの向上や人材育成を図るために、専門医師養成実地研修、各種専門職研修など多数の研修会を実施している。また、各種マニュアルや冊子を作成し配布している。HIVエイズ先端医療開発センターのホームページからも、最新の情報発信を行っている (<http://www.onh.go.jp/khac/>)。さらに、HIV患者の長期療養や一般医療の必要性も高まっており、地域の医療機関や訪問看護との連携も積極的に行っている。症例相談、針刺し等の職務感染防止への対応、生活療養支援など、さまざまな相談にすみやかに対応できる体制を目指している。

【2011年度研究発表業績】

A-0

Fujisaki S, Yokomaku Y, Shiino T, Koibuchi T, Hattori J, Ibe S, Iwatani Y, Iwamoto A, Shirasaka T, Hamaguchi M, Sugiura W. Outbreak of Infections by Hepatitis B Virus Genotype A and Transmission of Genetic Drug Resistance in Patients Coinfected with HIV-1 in Japan. *Journal of Clinical Microbiology* 2011; 49(3):1017-1024 (2011年4月)

Watanabe D, Taniguchi T, Otani N, Tominari S, Nishida Y, Uehira T, Shirasaka T. Immune reconstitution to parvovirus B19 and resolution of anemia in a patient treated with highly active antiretroviral therapy. Journal of Infection and Chemotherapy 2011; 17(2):283-287 (2011 年 4 月)

Watanabe D, Ibe S, Uehira T, Minami R, Sasakawa A, Yajima K, Yonemoto H, Bando H, Ogawa Y, Taniguchi T, Kasai D, Nishida Y, Yamamoto M, Kaneda T, Shirasaka T. Cellular HIV-1 DNA levels in patients receiving antiretroviral therapy strongly correlate with therapy initiation timing but not with therapy duration. BMC Infectious Diseases 2011; 11:146 (2011 年 5 月)

Shirasaka T, Tadokoro T, Yamamoto Y, Fukutake K, Kato Y, Odawara T, Nakamura T, Ajisawa A, Negishi M. Investigation of emtricitabine-associated skin pigmentation and safety in HIV-1-infected Japanese patients. Journal of Infection and Chemotherapy 2011;17:602-608 (2011 年 10 月)

Yoshino M, Yagura H, Kushida H, Yonemoto H, Bando H, Ogawa Y, Yajima K, Kasai D, Taniguchi , Watanabe D, Nishida Y, Kuwahara T, Uehira T, Shirasaka T. Assessing recovery of renal function after tenofovir disoproxil fumarate discontinuation. Journal of Infection and Chemotherapy 2011 (2011 年 10 月)

Watanabe D, Yoshino M, Yagura H, Hirota K, Yonemoto H, Bando H, Yajima K, Koizumi Y, Otera H, Tominari S, Nishida Y, Kuwahara T, Uehira T, and Shirasaka T. Increase in serum mitochondrial creatine kinase levels induced by tenofovir administration. Journal of Infection and Chemotherapy (2012 年 2 月)

Watanabe D, Koizumi Y, Yajima K, Uehira T, Shirasaka T. Diagnosis and treatment of AIDS-related primary central nervous lymphoma. Journal of Blood Disorders and Transfusion (2012 年 3 月)

A-3

白阪琢磨 : DHHS ガイドライン 2011 Up-Date 「HIV 感染症と AIDS の治療」 2(1):P14-17、株式会社メディカルレビュー社、2011 年 5 月

白阪琢磨 : 免疫不全状態に関連する感染性大腸炎の鑑別診断 「臨牀消化器内科 6 月増刊号」 26(7):P97-106、株式会社日本メディカルセンター、2011 年 5 月

今村顕史、上平朝子、加藤雪彦、堀場昌英、山中晃 : いまさら聞けない HIV 感染症～患者は突然やってくる～最終回 座談会 HIV 感染者の早期発見!!見落とさないコツ 「医薬の門」 51(3):P224-231、2011 年 7 月

富成伸次郎、島本裕子、谷口美由紀、谷口智弘、白阪琢磨 : ノロウイルスを 3 ヶ月以上持続して便より検出した HIV 感染者の 2 症例 「日本環境感染学会誌」 26(4):P249-252、2011 年 10 月

白阪琢磨 : 最新の DHHS ガイドライン 「HIV 感染症と AIDS の治療」 2(2):P18-21、株式会社メディカルレビュー社、2011 年 11 月

大寺博、上平朝子：Q&A 形式 Case Study HIV 合併肺癌について「HIV 感染症と AIDS の治療」2(2):P14-17、株式会社メディカルレビュー社、2011 年 11 月

富成伸次郎：Q&A 形式 Case Study HIV 感染症と脂質異常症「HIV 感染症と AIDS の治療」2(2):P14-17、株式会社メディカルレビュー社、2011 年 11 月

上平朝子：HIV 患者における腎機能障害の問題「大阪透析研究会会誌」29(2):P215-225、2011 年 12 月

小泉祐介、藤山佳秀：下痢症へのアプローチ 免疫不全症や移植後の下痢症「medicina」49(2)：P2-5、株式会社医学書院、2012 年 2 月

A-4

西田恭治：血友病レポート 25 「ECHO」(73)：P9-10、バイエル薬品株式会社発行、2011 年 7 月

西田恭治：血友病・VWF 病と妊娠「産科と婦人科」80 巻 1 号、(株)診断と治療社、2012 年 3 月

A-5

白阪琢磨：日本人の腎機能に及ぼす影響「第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会 ランチョンセミナー記録集『Tenofovir を含む長期抗 HIV 療法と腎臓及び骨～海外の報告、日本人における検証と今後の課題～』」、鳥居薬品株式会社、2012 年 3 月

A-6

白阪琢磨：Integrase 領域の変異の出現を認めた Raltegravir による治療失敗の 2 例「第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会記録集」：エルゼビア・ジャパン株式会社、2011 年 5 月

白阪琢磨：抗 HIV 用薬「治療薬ハンドブック 2012」、株式会社じほう、2012 年 1 月

白阪琢磨：HIV 感染で休職強要「朝日新聞夕刊」、2012 年 1 月 13 日号：P9、朝日新聞社、2012 年 1 月

B-2

Tominari S. Factors Associated with Loss to Follow-Up among HIV-Infected Patients in Japan: a Nested Case-Control Study. The 10th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Busan ,Republic of Korea, 2011 年 8 月

Yoshino M, Yagura H, Kushida H, Yonemoto H, Bando H, Ogawa Y, Yajima K, Kasai D, Taniguchi T, Watanabe D, Nishida Y, Kuwahara T, Uehira T, Shirasaka T. Evaluating recovery of renal function after tenofovir disoproxil fumarate discontinuation in HIV-infected Japanese patients. The 10th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific (ICAAP2011), Busan, 2011 年 8 月

Nakakura T, Yasuo T, Otani Y, Shimoji Y, Shirasaka T : Neuropsychological impairments in patients infected with HIV in Japan. The 10th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Busan, Korea, 2011 年 8

Yasuo T, Nakakura T, Otani A, Morita M, Fujimoto E, Kuratani T, Miyamoto T, Shimoji Y, Hirotsune H, Shirasaka T. Mental Health and Substance Abuse of HIV Infected Patients in an Outpatient Clinic in Japan. The 10th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Busan, Korea, 2011 年 8 月

B-3

白阪琢磨 : 日本人の肝機能に及ぼす影響。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会ランチョンセミナー「Tenofovir を含む長期抗 HIV 療法と腎臓及び骨～海外の報告、日本人における検証と今後の課題～」、東京、2011 年 11 月

白阪琢磨 : HPTN052 の意義。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会イブニングセミナー「HIV 感染症『治療の手引き』第 15 版」、東京、2011 年 11 月

白阪琢磨 : キードラッグの選択をどのようにすべきか～治療経験の多い施設の現状と各キードラッグの特徴～。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

白阪琢磨 : 医療の立場から。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会共催シンポジウム「今の医療に新たに求められているもの第 2 回～自業自得・バチを巡って、スピリチュアル・ケアを考える～」、東京、2011 年 12 月

上平朝子 : 長期治療のマネジメントを考えた ARV の選択～臨床医の経験に学ぶ～。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会ランチョンセミナー、東京、2011 年 12 月

B-4

西田恭治 : HBV、HCV を合併する HIV 治療の現状。第 3 回東海 HIV/AIDS 治療研究会、名古屋、2011 年 9 月

西田恭治 : 日本におけるベネフィックスの使用経験～ベネフィックス国内使用成績調査より～。第 73 回日本血友病学会学術集会コーポレートセミナー、名古屋、2011 年 10 月

井上洋士、村上未知子、有馬美奈、大野稔子、岡野江美、豊島裕子、岡本学、安尾利彦、白阪琢磨 : 「HIV 陽性者のセクシュアルヘルス支援のための研修会」の 5 年間の経緯—参加者によるプログラム評価の比較分析を主軸として。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月

服部純子、椎野禎一郎、瀧永博之、林田庸総、吉田繁、千葉仁志、小池隆夫、佐々木悟、伊藤俊広、内田和江、原孝、佐藤武幸、上田敦久、石ヶ坪良明、近藤真規子、長島真美、貞升健志、古賀一郎、太田康男、山元泰之、福武勝幸、加藤真吾、藤井毅、岩本愛吉、西澤雅子、岡慎一、伊部史朗、横

幕能行、上田幹夫、大家正義、田邊嘉也、渡辺香奈子、渡邊大、白阪琢磨、小島洋子、森治代、中桐逸博、藤井輝久、高田昇、木村昭郎、南留美、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、杉浦互：新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV の動向。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月

四本美保子、味澤篤、萩原将太郎、田沼順子、上平朝子、永井宏和、藤川裕子、北野喜良、有馬靖佳、宇野健司、岩井俊樹、本郷偉元、岡田誠治：本邦におけるエイズ関連ホジキンリンパ腫 19 例の実態。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月

小泉祐介、廣田和之、米本仁史、坂東裕基、大寺博、矢嶋敬史郎、富成伸次郎、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：当院における非エイズ指標悪性腫瘍の臨床的検討。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月

渡邊大、吉野宗宏、矢倉裕輝、廣田和之、米本仁史、坂東裕基、矢嶋敬史郎、小泉祐介、大寺博、富成伸次郎、西田恭治、栗原健、上平朝子、白阪琢磨：Tenofovir の投与による血中ミトコンドリア CK 活性の上昇に関する研究。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月

仲倉高広、宮本哲雄、小西加保留、山中京子、松岡千代、白阪琢磨：HIV 医療における施設ごとのチーム医療の状況を把握する試み。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月

藤原良次、早坂典生、橋本謙、山縣真矢、間島孝子、太田裕治、坂本裕敬、羽島潤、白阪琢磨：ケースマネージメントスキルを使った行動変容支援サービスに関する研究。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月

小西加保留、石川雅子、関谷早苗、山田由紀、武田謙治、小澤あかね、井上洋士、白阪琢磨：退院援助困難事例のための支援シートに関する研究。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月

今井敏幸、東政美、治川知子、下司有加、上平朝子、白阪琢磨：セックスおよび物質依存に関する相談体制の向上に関する研究。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月

東政美、今井敏幸、治川知子、下司有加、宮本ひとみ、白阪琢磨：生活習慣病の既往のある HIV 患者の看護支援の現状と課題。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月

坂東裕基、廣田和之、米本仁史、矢嶋敬史郎、小泉祐介、大寺博、富成伸次郎、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：メフロキン投与を行った進行性多巣性白質脳症 3 症例の検討。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月

小泉祐介、南口仁志、木藤克之、程原佳子、藤山佳秀：原発性副腎機能低下症と筋原発悪性リンパ腫を合併した AIDS の一例。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月

白阪琢磨、日笠聡、岡慎一、川戸美由紀、橋本修二、吉崎和幸、福武勝幸：血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第 1 報 CD4 値、HIV-RNA 量と治療の現状と推移。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月

上平朝子、吉野宗宏、渡邊大、榎田宏幸、矢倉裕輝、廣田和之、米本仁史、坂東裕基、矢嶋敬史郎、小泉祐介、大寺博、富成伸次郎、西田恭治、白阪琢磨：当院の NRTI-sparing レジメンの使用経験。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月

川戸美由紀、橋本修二、岡慎一、吉崎和幸、福武勝幸、日笠聡、白阪琢磨：血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第 2 報 1997 年度対象者の 13 年間の観察。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月

熊谷祐子、佐保美奈子、古山美穂、工藤里香、豊田百合子、畑井由美子、泉柚岐、下司有加、白阪琢磨、飯沼恵子、澤口智登里、王美麗、繁内幸治、須見彰：アクティビティを取り入れた HIV 研修プログラムの検討。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月

倉谷昂志、廣常秀人、安尾利彦、大谷ありさ、仲倉高広、森田眞子、藤本恵里、宮本哲雄、西川歩美、上平朝子、白阪琢磨：精神科医を対象とした研修会受講後の HIV 感染症患者への理解・認識の変化について。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月

吉野宗宏、矢倉裕輝、榎田宏幸、米本仁史、廣田和之、坂東裕基、矢嶋敬史郎、小泉祐介、大寺博、富成伸次郎、渡邊大、栗原健、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：1 日 1 回投与 darunavir/ritonavir の使用成績。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

榎田宏幸、吉野宗宏、矢倉裕輝、米本仁史、廣田和之、坂東裕基、矢嶋敬史郎、小泉祐介、大寺博、富成伸次郎、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：当院における Atazanavir の長期投与成績。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

小河原光正、木村剛、安藤性實、宮本智、上平朝子、白阪琢磨：結核病床を有しないエイズ治療ブロック拠点病院におけるクオンティフェロン TB-2G(QFT)測定結果の検討。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

治川知子、今井敏幸、東政美、下司有加、宮本ひとみ、上平朝子、白阪琢磨：当院における初診時の問診内容より得られた HIV 陽性者の感染経路について。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

富成伸次郎、安尾利彦、山中京子、白阪琢磨、中山健夫：HIV 感染症患者の受診中断予測因子およびカウンセリングとの関連についてのケース・コントロール研究。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

宮本哲雄、仲倉高広、安尾利彦、森田眞子、大谷ありさ、藤本恵里、倉谷昂志、西川歩美、下司有加、治川知子、東政美、今井敏幸、廣常秀人、白阪琢磨：神経心理学的障害の自覚に関する研究。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

仲倉高広、下司有加、織田幸子、岡本学、富成伸次郎、白阪琢磨：がんを併発した HIV 陽性患者の心理療法について。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

安尾利彦、仲倉高広、森田眞子、大谷ありさ、藤本恵里、倉谷昂志、宮本哲雄、西川歩美、下司有加、治川知子、東政美、今井敏幸、廣常秀人、白阪琢磨：HIV 感染症患者の初診時におけるメンタルヘルス。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

大谷ありさ、仲倉高広、安尾利彦、森田眞子、藤本恵里、倉谷昂志、宮本哲雄、西川歩美、下司有加、治川知子、東政美、今井敏幸、白阪琢磨、廣常秀人：初診時から 1 年後の HIV 感染症者のメンタルヘルス。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

栞原健、矢倉裕輝、吉野宗宏、上平朝子、白阪琢磨、杉浦亙：エトラビルン、ダルナビル、ラルテグラビルの血中トラフ値と海外データとの比較。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

渡邊大、上平朝子、白阪琢磨、味澤篤、今村顕史、菅沼明彦、濱口元洋、横幕能行、南留美、高濱宗一郎、白野倫徳、後藤哲志：急性 HIV 感染症における他のウイルス感染症との関連性の検討。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

矢倉裕輝、吉野宗宏、櫛田宏幸、上平朝子、白阪琢磨、栞原健：抗 HIV 薬の簡易懸濁法適用に関する検討。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

矢嶋敬史郎、上平朝子、湯口清徳、廣田和之、米本仁史、坂東裕基、小泉祐介、大寺博、富成伸次郎、渡邊大、葛下典由、西田恭治、三田英治、白阪琢磨：抗 HIV 薬による非硬化性門脈圧亢進症(NCPH)の 1 例。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

矢倉裕輝、吉野宗宏、櫛田宏幸、米本仁史、廣田和之、坂東裕基、矢嶋敬史郎、小泉祐介、大寺博、富成伸次郎、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、栞原健：Ritonavir の剤形変更に伴う薬物動態の比較検討および自覚症状の変化に関する調査。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

菊池嘉、遠藤知之、宮城島拓人、伊藤俊広、中村仁美、田邊嘉也、上田幹夫、横幕能行、渡邊大、藤井輝久、南留美、健山正男：多施設共同疫学調査における HAART の有効率 2010。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

日笠聡、栞原健、小島賢一、白阪琢磨：抗 HIV 療法と服薬援助のための基礎的調査—治療開始時の

抗 HIV 薬処方動向調査(2011 年)―。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

小島賢一、栗原健、日笠聡、白阪琢磨：抗 HIV 療法と服薬援助のための基礎的調査―抗 HIV 薬の薬剤変更状況調査(2011 年)―。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

栗原健、小島賢一、日笠聡、白阪琢磨：拠点病院における抗 HIV 療法と薬剤関連アンケート調査結果(2011)。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

須藤弘二、吉野宗宏、栗原健、白阪琢磨、加藤真吾：LC-MS/MS を用いた毛髪中および血液中の抗 HIV 薬の定量。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

仲倉高広、下司有加、織田幸子、岡本学、富成伸次郎、白阪琢磨：がんを併発した HIV 陽性患者の心理療法について。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 12 月

西田恭治：定期補充療法の考え方について。血友病研究会、大阪、2012 年 1 月

吉野宗宏、矢倉裕輝、櫛田宏幸、槇原克也、河合 実、土井敏行、早川直樹、上野裕之、関本裕美、山内一恭、本田芳久、小森勝也、白阪琢磨、薬剤師外来の取り組み-HIV チーム医療における薬剤師の役割-、日本薬学会第 132 年会、札幌、2012 年 3 月

B-5

西田恭治：全国ヘモフィリアフォーラム 2011 分科報告会。全国ヘモフィリアフォーラム 2011、大阪、2011 年 4 月

上平朝子：シンポジウム 1・HIV 診療の現状と課題―若手医師の悩み―。第 54 回日本感染症学会中日本地方会学術集会、第 59 回日本化学療法学会西日本支部総会、大阪、2011 年 11 月

白阪琢磨：第 13 回福井性感染症研究会。HIV 感染症の診断と診療についての特別講演、福井、2012 年 3 月

白阪琢磨：HIV 診療の最前線。富田林感染症セミナー、富田林、2012 年 3 月

B-6

西田恭治：成人血友病の感染症について。第 9 回静岡県血友病治療ネットワーク、静岡 2011 年 10 月

西田恭治：HIV 医療の成果と社会的負債。第 10 回福岡 HIV 感染症治療研究会、福岡、2011 年 11 月

白阪琢磨：最新の HIV 感染症治療について。第 16 回横浜最新治療フォーラム。2012 年 2 月

白阪琢磨：HIV 診療の最前線ーエイズ・ブロック拠点病院からー。HIV 感染症に対する院内セミナー、大阪、2012 年 3 月

白阪琢磨：HIV 陽性者の治療の現状と在宅支援について。エイズ啓発講演会（尼崎市）、尼崎、2012 年 3 月

B-8

白阪琢磨：HIV 感染症診療の現状。高槻薬剤師会学術講演会、大阪、2011 年 4 月

白阪琢磨：HIV/AIDS 医療の現状と当院の役割。平成 23 年度新採用職員研修、大阪、2011 年 4 月

白阪琢磨：HIV 感染症・AIDS について。国立大学法人大阪大学医学部講義、大阪、2011 年 4 月

小泉祐介：感染症診療の基本的考え方と抗菌薬の使い方。滋賀医科大学医学部卒後臨床研修イブニングセミナー、滋賀、2011 年 4 月

白阪琢磨：血液感染症の予防と対策。国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局神戸視力障害センター 教官研修会、兵庫、2011 年 5 月

上平朝子：高齢化する HIV 陽性者とエイズ患者の在宅生活の支援と医療との連携。北区居宅介護支援事業者連絡会・北区訪問介護事業者連絡会、大阪、2011 年 5 月

矢嶋敬史郎：過去から現在へ・・・治療の変遷について、日和見感染症（呼吸器感染症）。HIV 感染症研修会基礎編、愛知、2011 年 5 月

白阪琢磨：HIV について。第一東和会病院 職場研修会、大阪、2011 年 6 月

白阪琢磨：当院における HIV 診療の現状と課題～HIV 感染症を見落とさないために～。泉州地区臨床懇話会、大阪、2011 年 6 月

渡邊大：簡単に分かるエイズ診療。平成 23 年度四国地方エイズ拠点病院コミュニケーションスキル向上のための会議、徳島、2011 年 6 月

上平朝子：感染症コース「HIV 感染症」。関西医科大学・3 学年講義、大阪、2011 年 6 月

白阪琢磨：HIV 感染症診療の進歩と近畿ブロックの現状。平成 23 年度新任中間監督者研修、大阪、2011 年 7 月

上平朝子：平成 23 年度第 1 回肝臓専門医育成プロジェクト、大阪、2011 年 7 月

矢嶋敬史郎：HIV/HCV 感染症治療の最前線。2011 年度患者担当相談員研修（MERS）、大阪、2011 年 7 月

小泉祐介：第 4 回近畿 HIV FRONTIER 研究会、大阪、2011 年 7 月

坂東裕基：HIV とは。健栄会三康病院 HIV 疾患とその周辺知識についての講演会、大阪、2011 年 7 月

白阪琢磨：HIV 感染者の人権問題について。2011 年度人権総合相談員養成講座（大阪市）、大阪、2011 年 8 月

矢嶋敬史郎：HIV と悪性腫瘍。HIV 看護スキルアップセミナー、北海道、2011 年 9 月

米本仁史：HIV 感染症の基礎知識。HIV 検査相談研修会、大阪、2011 年 9 月

白阪琢磨：HIV 感染症とは？。エイズ文化フォーラム in 京都、京都、2011 年 10 月

白阪琢磨：HIV 感染症の最新医療について。HIV 陽性者支援事業（池田保健所）平成 23 年度 HIV/AIDS 学習会、大阪、2011 年 10 月

白阪琢磨：「HIV/AIDS 講座」における HIV/AIDS の解説。平成 23 年度エイズ予防啓発イベント「レッドリボンシアター2011」、東京、2011 年 10 月

富成伸次郎：医学的な基礎知識と最新情報。HIV 陽性者のための治療に関する勉強会、大阪、2011 年 10 月

白阪琢磨：エイズ教育（性教育）の進め方。平成 23 年度新規採用養護教諭研修（大阪府）、大阪、2011 年 11 月

矢嶋敬史郎：HIV 感染症に合併する悪性腫瘍について。第 4 回大阪緩和ケア連携カンファレンス、大阪、2011 年 11 月

上平朝子：血液・体液で感染する感染症（医療について）。社会福祉法人白寿会 白寿苑の高齢者入所・通所施設の法人関係者向け講義、大阪、2011 年 12 月

小泉祐介：HIV/AIDS の基礎知識と滋賀県の現状。公立甲賀病院 結核への対応についての研修会、滋賀、2011 年 12 月

白阪琢磨：HIV 感染症・治療。大阪赤十字看護専門学校講義、大阪、2011 年 12 月

白阪琢磨：「生活支援論・地域Ⅱ」。平成 23 年度大阪府立大学看護部講義、大阪羽曳野市、2011 年 12 月

白阪琢磨：HIV 感染症/AIDS 治療の現状と課題。鳥取県 HIV 感染症診療研修会、鳥取、2011 年 12 月

白阪琢磨：HIV に関する講演。長浜バイオ大学バイオサイエンス学部アニマルバイオサイエンス学科「感染生物学」講義。滋賀、2012 年 1 月

白阪琢磨：当院の HIV 診療の現状および最新の治療、HIV 感染症の抗 HIV 療法。平成 23 年度 HIV 感染症研修会（国立病院機構本部主催）、大阪、2012 年 1 月

上平朝子：女性と HIV。平成 23 年度 HIV 感染症研修会（国立病院機構本部主催）、大阪、2012 年 1 月

西田恭治：HIV と血友病。平成 23 年度 HIV 感染症研修会（国立病院機構本部主催）、大阪、2012 年 1 月

渡邊大：HIV 感染症の診断。平成 23 年度 HIV 感染症研修会（国立病院機構本部主催）、大阪、2012 年 1 月

富成伸次郎：針刺し暴露後対策。平成 23 年度 HIV 感染症研修会（国立病院機構本部主催）、大阪、2012 年 1 月

矢嶋敬史郎：日和見感染症。平成 23 年度 HIV 感染症研修会（国立病院機構本部主催）、大阪、2012 年 1 月

矢嶋敬史郎：特別セミナー講師。第 12 回北関東・甲信越 HIV 感染症症例検討会、群馬、2012 年 1 月

坂東裕基：HIV 感染症の基礎知識。3 大プログラム HIV/エイズ・B 型肝炎研修会（chot CAST なんば）、大阪、2012 年 1 月

米本仁史：HIV 感染症の基礎知識。3 大プログラム HIV/エイズ・B 型肝炎研修会（chot CAST なんば）、大阪、2012 年 1 月

白阪琢磨：HIV 感染症治療の現状。京都医療センター附属京都看護助産学校講義、京都、2012 年 2 月

渡邊大：HIV 診療の基礎知識。香川県におけるエイズ診療向上のための会議（香川大学医学部附属

病院主催)、香川、2012年2月

矢嶋敬史郎：HIV診療でのアディクションの実際。JANAC第17回HIV/AIDS看護学会 総会・研究発表会、東京、2012年2月

小泉祐介：HIV感染症患者に合併した腸炎の実際。第10回北摂エリア腸疾患勉強会、大阪、2012年3月

上平朝子：HIV感染症診療早期化の流れ、最近のトピック。第16回エイズ診療ネットワーク in Nagasaki、長崎、2012年3月

B-9

白阪琢磨：エイズ。サンデー Doktor、読売テレビ放送、大阪、2011年5月